

石山寺

石山寺は747年に仏教僧、良弁（689-773）が創建したと伝えられています。良弁は奈良の東大寺も創建しています。伝説では、石山寺が建てられた地は、東大寺の銅の大仏を荘厳する金を探していた良弁が、その祈りを捧げるためにやってきた場所です。

石山寺は高貴な女性の紫式部が11世紀に世界初の小説、源氏物語を書き始めた場所として知られています。紫式部はこの寺院の最高地点から琵琶湖上の満月を眺めていて、小説の着想を得たと伝えられています。石山寺には日本最古の木造の二重の塔もあります。国宝指定を受けているこの塔は1194年に建立されたもので、内部に収められた彫像と絵画は重要文化財に指定されています。

寺院の境内は緑したたる自然が豊かで、燃えるような楓の木の紅葉や春の桜など一年中楽しめます。本堂の前の神聖な奇岩は、山そのものに由来する珪灰石です。